

地域の中学校間で連携した授業改善について

～「市の教科部会活用モデル(新見市)」「2校連携モデル(玉野市)」の取組～

小規模の中学校では同一教科の教員が少なく、全科を指導することが多い小学校に比べて、教科指導力向上に関する研修で教材理解を深めることが難しい現状があります。そこで、県教委では「中学校の教科指導力向上のための推進員」を県内5市に配置し、これまで「学校間連携モデル」の構築に取り組んできました。

本号ではその中の2地区の取組を紹介します。中学校同士が連携することによる教科の指導力向上に向けた取組の一つとして、参考にしていただければと思います。

市の教科部会活用モデル(新見市英語部会)

新見市では、英語教育の推進を重点的な取組の一つに掲げ、ALTを幼稚園、認定こども園、小学校、中学校に派遣することで、幼少期から英語に慣れ親しむ環境を提供しています。

また、推進員を市内の全中学校に勤務できる体制を整え、小1から中3までの9年間を貫く外国語指導の更なる充実に向け「見つける・繋げる・広げる」をテーマに、市全体で一体的な授業改善の取組を推進しています。

取組① プログラムごとのCAN-DOリスト

英語部会では「プログラムごとのCAN-DOリスト」を共同作成し、活用することで英語の指導力向上を図っています。岡山型学習指導のスタンダードに基づき、CAN-DOリストを活用した授業例を紹介するなど、市全体で授業づくりの方向性の共通理解を図っています。

CAN-DOリストに基づく振り返りシート

7 単元名		If You Wish to See a Change			
単元名	単元名	1	2	3	4
①	英語を使って自分について話し、興味を持って授業を受ける。				
②	相手の表情を見て話を聞いて、授業参加の意欲を高めることができる。				
③	Lesson 2,3,4の単語やフレーズをスピークカードを使って、授業で活用することができる。				
④	英語指導中目標達成についてのLesson 2,3,4の考えが書かれた文を読み、意見を表明することができる。				
⑤	Lesson 4の文型を使って、身近な人にメッセージを送ることができる。				

岡山型学習指導のスタンダードに基づく指導例



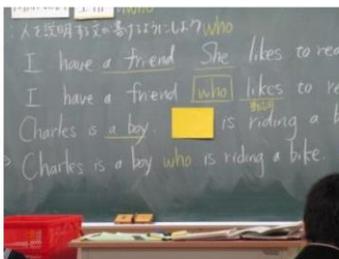
取組② 新見市小中一貫教育モデル校からの情報発信

新見南中学校区が新見市小中一貫教育モデル校として、外国語指導の9年間のカリキュラムの開発研究に取り組み、その成果を踏まえて全中学校区での実施を目指します。また、中学校教員による小学校への出前授業の事例も市内に配信し、今年度は全中学校区で出前授業が実施されました。



新見南小・外国語活動

取組③ 校長会と英語部会が協力し、授業実践の紹介・他校授業参観を実施



- ① 州の人
- ② 極の人
- ③ 全州の人
- ④ 州の人

カードやKP法を活用して視覚支援



各校の授業と他校参観の様子



参観の先生に質問して交流

「KP法」紙芝居プレゼンテーション法の略で、A4等の用紙に伝えたい内容を記入し、提示する方法。

推進員が月1回発行する通信により、好事例の共有を図っています。さらにCAN-DOリストの効果的な活用や内容の検証を進めるために、新見市研修所英語部会長から新見市校長会に出張の承認を要請し、推進員が日程調整した公開授業の参観・研究協議にいつでも参加可能とすることで、公開授業を待たずに授業参観や研究協議をする取組が始まっています。

パフォーマンステストとルーブリック評価の紹介

項目	Program6 Speaking Test				
	F	Class	No.	Name	S
スピーチ	1	1	1	1	1
発表	2	2	2	2	2
対話	3	3	3	3	3
ディスカッション	4	4	4	4	4
グループワーク	5	5	5	5	5

